

# 129 運転中の急病と高血圧

## 運送業界の健康支援を生きがいに

第18回「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」当日の2月25日、参加者の方から、衝撃的な声が聞こえました。「梅田の繁華街で車が暴走して大事故になっている」と。

死傷者10人を出したこの大惨事の概要は、その後の報道を通じて状況が明確になってきました。運転者の死亡原因とされる病名は「大動脈解離」。そして、高血圧で治療していたこと、治療を一時中断していたこと、事故の1か月前から直前まで、複数の医療機関を受診していたこと、事故直前の携帯に通話履歴がないことから、体調の急変を感じて一旦停車した前後に発症したのではないかと――などです。

さて、今後、事故原因はさらに明確になると思われますが、現時点での情報をもとに、私な



《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》  
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)  
副理事長 作本 貞子  
「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表  
TEL : 06-6965-3666  
FAX : 06-6965-5261  
東京オフィス TEL : 03-3295-1271  
E-mail sakumoto@ochis-net.com  
HP <http://sas.ochis-net.jp/>

りに論点を整理してみました。  
・事故直後、家族や周囲は「とても元気な人」という印象を持っていて、多くの人が「とても信じられない」と感じていました。このことは、働き盛りの多くの人は元気でそうに見えても、何らかの生活習慣病を抱えているケースが多いこと、高齢社会が進展すれば、その確率はさらに高くなることを表しています。高血圧の確率は40歳代で4割、50歳代で5割、60歳代では6割ともいわれています。  
・服薬を中断してたこのことですが、高血圧の薬を勝手にやめると、逆に血圧は急上昇するので大変危険です。血圧だけに留まらず、糖尿病、風邪、花粉症、メンタルなど、多くの薬は運送業務と密接な関係があります。

す。飲む量、タイミングなど、一歩間違えると危険であるということも認識していかなければなりません。

・どのような複数の医療機関に、どういうかかり方をしていったかは不明ですが、病気や受診に際して苦悩していた様子を推測することができます。

・高速道路を下りてからあまり時間が経過がない段階で発症していることから、高速道路内での血圧上昇を引きずっていたとも考えられます。高速道路での走行やヒヤリハットを経験すると血圧は20〜30も急上昇すると言われています。

### ◆教訓を生かす

このように考えると、運送業務において気をつけなければならぬ教訓が明確になってきます。脳・心臓疾患は突然起きると思われがちですが、今回のケースではいくつかの注意点がありません。血圧管理、薬のコントロール、医療機関のかかり方など、これらのうち、何かひとつでも注意していれば今回の大惨事は防げたかもしれないと思うと、残念でなりません。

(次回は4月11日号に掲載)